

**次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会
第1回観光地域づくり部会 議事録**

■日 時

2023年6月27日（火）10：00～12：00

■場 所

愛知県自治センター4階 第三会議室
オンライン Zoom *ハイブリッド形式により開催

■出席者

●委 員（敬称略）

○…部会長

所属・職	氏 名	形式
株式会社カーネル総研 取締役 コンテンツ・プロデューサー/中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長	あかさき まきこ 赤崎 真紀子	対面
日本政府観光局（JNTO） MICE プロモーション部次長	いたがき あやこ 板垣 彩子	オンライン
国立大学法人和歌山大学 経済学部 教授	おおさわ たけし ○大澤 健	オンライン
株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター長	さわのぼり つぐひこ 沢 登 次彦	オンライン
名城大学 名誉教授	ふたがみ まみ 二神 真美	対面

●オブザーバー（敬称略）

所属・職	氏名	形式
一般社団法人中央日本総合観光機構 常務理事・事務局長	おぎの みつたか 荻野 光貴	対面
一般社団法人愛知県観光協会 専務理事	さかきばら ひとし 榊原 仁	対面

●事務局（愛知県観光コンベンション局）

観光コンベンション局各課長補佐・室長補佐同席

*局長、推進監、課長、室長、担当課長はオンラインで参加。

開 会

○渡邊課長補佐

出席予定者の皆さま、おそろいですので、始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会の第1回「地域づくり部会」を始めさせていただきます。本日の進行役を務めさせていただきます、観光振興課の渡邊でございます。よろしくお願いたします。

本日のご出席者のご紹介はお手元の出席者名簿に代えさせていただきます。

本日、皆さまから、忌憚のないご意見、多くいただきたくとともに、皆さまと事務局の間で、活発な意見交換もできればと考えております。今回、事務局側の人数を減らさせていただいて、私ども各グループの班長が会場にいます。幹部はオンラインで本庁舎から、この話を聞かせていただいて、もちろん、適宜、発言もさせていただきますので、よろしくお願いたします。

配布資料は、A3の「次期愛知県観光振興基本計画（2024-2026）の骨子（修正案）・集約版」の集約版の1枚でございます。

それでは、早速ですが議事に入らせていただきたいと思います。ここからの進行は大澤部会長にお願いします。

○大澤部会長

はい。部会長の私です。聞こえてますでしょうか。大丈夫ですかね。

それでは、今日12時までということで、2時間ほど、お時間ありますので、皆さんの活発なご意見を伺えればと思います。

それでは議事を始めさせていただきます。まず、資料に従って、観光振興施策を実施する目的、目的を達成するために「目指すべき姿」、「目指す姿に到達する施策」の実施方法について、事務局から説明をお願いいたします。

議題1 「観光振興施策を実施する目的」、「目的を達成するために目指すべき姿」、「目指す姿に到達する施策の実施手法」について

○渡邊課長補佐

はい。では、A3の資料をご覧ください。まず、この修正案につきましては、前回、第1回全体会合の際に、委員、オブザーバーの皆さまからの意見の他、県庁内の各局および市町村に対して実施した意見照会の結果などを反映し、論点が明確になるように、集約版という形でお示しをしております。赤文字の部分が、前回、資料に記載のなかった箇所、または変更箇所となっております。

資料に沿って、「観光振興施策を実施する目的」、それから二つ目が「目指すべき姿」、三

つ目に「目指すべき姿に到達するための基本方針」。この、まず三つについて、ご説明させていただきます。

前回の会合におきまして「目指すべき姿」を議論する前に、なぜ愛知県が計画を策定し、観光振興に取り組むのか、その目的を明確にすることから議論を始めるべきではないかのご意見をいただきました。広域自治体である愛知県が観光振興を実施する目的は、「観光を通じて住む人、県民」です。それから「訪れる人、観光客の皆さま」、それから「携わる人、観光関連事業者、観光関連産業に従事していらっしゃる皆さん」。「こういった方々が満たされた、ウェルビーイングの状態である地域づくりを推進、実現するためだ」と考えております。観光が振興されることで、県民の皆さまが満たされた状態になるというのは、一つ目に観光による産業と地域の活性化が図られること、二つ目に選ばれる地となることによる地域への誇りが醸成されること、それから、地域資源が次世代に継承されていくということ。この三つが考えられるのでないか、と考えております。

次に、観光客、お越しになる皆さまが満たされた状態とは、『ツウ』な人でも満足できる、「高付加価値な体験が享受できること」、二つ目に「体験を通じた内面の充実や行動の変化が訪れる」、三つ目に「充実した余暇が実現する」といったことが考えられると思っております。最後に、観光関連産業で働いていらっしゃる皆さまが満たされた状態とは、一つは「仕事への誇りや、やりがいを感じられるということ」、二つ目が「雇用の安定化や待遇の向上が図られるということ」、三つ目が「ワークライフバランスの充実」といったことが考えられると思っております。

この目的を達成するために、今後3年間で目指すべき姿として、【～あいち『ツウ』リズム2.0～ デジタルとイノベーションで追いつける持続可能で「魅力的な観光県・あいち」】というのを掲げております。

前回の全体会合におきまして、【あいち『ツウ』リズム2.0】という表現についても、ご指摘をいただきました。愛知県に根差した本物の魅力を楽しんでいただくという、あいち『ツウ』リズムは不変的な考え方だと考えております。ただ、コロナ禍を経て、個人の趣味や思考が、一層、多様化した現在においては、その磨き上げや、PR・プロモーションの手法を再構築し、高度化していくとの意味を込めて、『2.0』と表現させていただきましたけれども、何か別の良い表現があれば、ぜひアドバイスをいただければと思います。

また、前回の会合におきまして、議論の中心となった「持続可能」というワードを加えております。持続可能であることが健全な観光地形であることを踏まえ、変更でございます。持続可能には、様々な観点や目的が含まれるため、この後、説明させていただく基本方針における記載も含め、是非アドバイスをいただければというふうに思います。

続いて、「目指すべき姿」に到達するために、どのように施策を進めていけばいいかについての基本方針です。前回の会合におきまして、いただいたご指摘を踏まえ、本県の観光振興施策は「持続可能な観光の実現」、「観光DXの推進」、「イノベーションの創出」という三つの方針に基づいて施策立案され、実施すべきだということを明記いたしました。説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。以上の説明におきまして、委員及びオブザーバーの皆さまから、ご意見をいただきたいと思えます。ご意見やご質問ありましたら、お願いいたします。

○二神委員

目的が明確に書かれているのが、非常に良いと思えます。それから、「持続可能な観光の推進」を付け加えるようにという話が前回ありましたが、今回、明確に基本方針の三つになっており、それを「目指すべき姿の実現」に持っていくとされているところも非常に分かりやすくなったと思えます。「ツウ」リズムに関しても今回はバージョン『2.0』ということで、これからさらに『3.0』、『4.0』という形になっていくのが良いのではないのでしょうか。以上が私の意見です。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。その他の方、ご意見いかがでしょうか。

じゃあ、私から一つ伺っていいですか。「目指すべき姿についての的確な表現があれば」と、事務局から発言がありましたが、これで皆さんの心に響くかどうかが大事成ります。「目指すべき姿」によって、愛知って、こういう観光をやるんだというのが分かることが、一番望ましいとは思えます。この点、どうでしょうか。

沢登委員、いかがですか。

○沢登委員

ありがとうございます。

「持続可能」は、今、新しい政策でも一丁目一番地になっています。「持続可能な地域づくり」が非常に重要だというのは、共通の理解であると思う一方で、現実的に、どの様に施策に落とししていくのか、気になっています。

「GSTC」でいうと、「持続可能な地域経営」って大きな方針の中、経済のサステナビリティと、文化のサステナビリティと、環境のサステナビリティを進めていく、また、「住んでよし、訪れてよし」という地域づくりという考え方があります。

「持続可能な」というワードは、すごく入れやすいですが、実は、分かりづらいワードでもあります。まだ、自分の中でも消化しきれていないので、部会長の最初の質問に対して、こういうワードがいいのでは、現時点では、明確にお答えできないですが、今後考えさせてください。

○大澤部会長

前半の「デジタル」、「イノベーション」と「持続可能」という言葉のニュアンスはいいのではないかという感じはしますが。

○沢登委員

そうですね。住民を巻き込んで持続可能にしていくのか、それとも、この「デジタル」と「イノベーション」を使って、愛知県が主体となって新しいチャレンジをしながら、持続可能性をつくりにいくのか。目指すべき姿は、県が主導して作り出すという姿勢を感じますが、目的のところでは、住民と事業者のウェルビーイングとなっています。これは、結局、どちらに主眼を置いているのか、と。

○大澤部会長

「デジタルとイノベーションで持続的に発展」という、持続的に発展していくというイメージですが、持続的に発展していくには、環境と文化と経済の三つが持続的になっていなければなりません。これをまとめて表現するような、いい言葉があれば「目指すべき姿」がもっとはつきりしてくるのではないのでしょうか。

○沢登委員

デジタル、イノベーション、持続可能を三つ並べているから、分かりづらいのではないのでしょうか。「持続可能」が目的なのか、手法なのか、ここを整理するのが、いいのではないのでしょうか。

○大澤部会長

はい。この辺、事務局としてはどうですか。

○赤崎委員

赤崎ですが、よろしいのでしょうか。この「目指すべき姿」のタイトルが心に響いてこないんですよ。どこの地域が言ってもいいような、抽象的な言葉の羅列になっているな、という感じがすごくします。前日も発言したと思うのですが、コロナですごく苦しんできた観光関係の事業者さんたちが喜んで一緒にやってくれるような、そして県民も「そうなのね、愛知県って、観光ではこんなふうやっていくんだ」という風に共感を寄せてくださるような、そんな愛知県の観光の姿がタイトルに出てほしいと思っています。

そういう意味では、今のこの「デジタルとイノベーションで追い上げる」という文言も、「デジタルとイノベーション」を目指すべき姿として掲げて、愛知県の観光関連事業者さんや県民にどれくらい響くのだろうかと懸念を感じました。「追い上げる」という表現も、この地域の観光への取組みが周回遅れだから、ということが背景にあるのかもしれませんが、こんな表現でいいのかなと疑問に思います。それに、「持続可能で魅力ある観光県・あいち」の「あいち」が、「ふくい」でも「さが」でも、どこの地域でも同じようなことが言えると思うので、もっと「愛知らしさ」を出してほしいです。以上です。

○大澤部会長

はい。まとめると「持続可能性」を打ち出してほしいが、「持続可能」が目的なのか、手

法なのか整理をする、「目指すべき姿」は、県民と観光客と観光事業者が共感できる表現であってほしい、なおかつ、愛知県らしさがきちんと表現できているものである必要がある、ということだと思いますけれども、事務局、いかがですか。

○渡邊課長補佐

ご意見ありがとうございます。

今、赤崎委員からもいただいた、いわゆる地域性みたいなところの表現は、確かに最後の愛知の一言ぐらいの話なので、ごもっともだと思います。愛知県っていわゆる、ものづくり県、産業県っていうイメージだと思います。これからは産業県でもあるけれども、「観光県にもなってくんだぞ」っていうメッセージを込めています。「デジタルとイノベーション」という手段を使っていこうということをメッセージとして出します。ですから、どちらかという、観光関連事業者の皆さんに対するメッセージとして、目指すべき姿を打ち出していくのかな、と改めて考えています。

もともと、あいち『ツウ』リズムっていうのが、愛知県は、いわゆる富士山とか金閣寺みたいに、アイコンで分かる観光地ではありませんが、武将とか、グルメとか、モノづくりとか、『ツウ』には響くものがあるよねということで、資源の高付加価値化や、ここにしかない魅力の磨き上げ、本当に好きな人に、丁寧に確実に、情報を届けていく必要があるということです。そのためには、県民も巻き込みながら、進めていくことにはなると思いますが、どちらかという、地域とか観光関連事業者の皆さまへのメッセージが強い傾向にあるのかな、というふうに思いました。また、何かコメントいただければと思います。

○大澤部会長

この点について、皆さん、いかがでしょうか。

○沢登委員

今、おっしゃっていただいたこと理解はできるのですが、その後の施策の柱とのつながりが弱いんじゃないかなって。

例えばDXとかデジタルとかを本気でやるってことは、かなりの気合が必要なことで、それは県として、どこまでやるのか。例えば、地域自治体に対して、どこまで求めていくのか。イノベーションっていうことも、ものづくり、ベンチャー、例えば観光産業に今まで関わってなかった、ものづくり産業の人たちにイノベーションを起こしてもらおうという、そういうアプローチをしていくっていうことであるならば、そういうのが施策の柱になって、つながると思います。そこが愛知らしさというところで、一気に通貫するというか、理解度が深まっていくんじゃないかなと。その下の施策って、全部、大事な施策なので、否定しているわけではないですが、強弱をつけていくっていうことを考えられてもいいのではないのでしょうか。

○大澤部会長

その他の方、いかがでしょうか。

○板垣委員

目指すべき姿として打ち出されている「デジタルとイノベーションで追いつける」という目標に対して、「施策の柱」と、その下にある「進捗管理の指標」の相関性があまり感じられません。「目指すべき姿」として、非常に大きく立派に書いていますが、施策が結び付いていないと感じます。

○大澤部会長

「施策の柱」については説明していただいた後に、もう一回、考えていきたいと思いません。

この部分まで、基本方針のところまで、その他、何か皆さんから、ご意見ありますでしょうか。

私の方から一つ指摘したい点は、目的のところでは観光関連事業者に、観光関連事業の経済的発展も入れてほしいです。先ほど、赤崎委員おっしゃったとおり、観光事業者の方々が、これを見てやる気になっていただくために、観光産業の経済的な拡大という点を入れなくていいのかな、というのは感じました。

それでは、続いて、「施策の柱」及び「役割」についてのところを、事務局から説明をお願いします。

議題2 「施策の柱」及び「各主体の役割」について

○渡邊課長補佐

では、議事のうち、同じ資料になりますけども、「施策の柱」と「各主体の役割」というところについて、説明をさせていただきます。

先ほどの目的、目指すべき姿、それから基本方針を踏まえまして、具体的に誰が何を進めていくかについて、記載しております。

「施策の柱」については、前回から大きく変更はしておりません。概要版となって、記載が不十分となった箇所を追記いたしました。具体的には、「MICEの誘致・開催に向けた取組強化」のところに「愛知県国際展示場」の文言を追加しております。

次に「各主体の役割」です。前回の会合においても、連携の重要性についてご指摘をいただきました。まず、この計画の策定主体である県が行うべきこと、また、行えることとして、連携体制の構築、データ収集及び分析支援、イノベーション創出の場づくり、県域へのプロモーションや周遊促進、地域資源の磨き上げの支援、人材育成の支援、観光を活用した地域振興・地域保全・文化の継承等を記載しております。

下には、県として連携していく主体と、さらに各主体に期待する役割を記載しております。特に、農林水産、商工業、文化、環境等の潜在的観光資源を所管する事業者の振興や

維持管理、保全といった目的を推進するために、観光を活用いただきたい、ということを書き記した。また、前回の全体会合でも、ご意見をいただいた、庁内の連携につきましては、県の役割に観光を活用した地域保全・文化の継承を明示することより、観光は観光産業に直接的に携わる部局、事業者だけのものではなくて、幅広い産業、さらには教育や福祉に至るまで様々な可能性を持っているということを書き記した。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。以上の説明について、委員及びオブザーバーの皆さんから、ご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○沢登委員

施策ってというのは『ツウ』リズムをしっかりと定着し、そこをコアとして進めていくと理解をしました。やるべきことってというのは『ツウ』リズムの推進ということなんだろうなと。そうやってきたときに、愛知県が求める『ツウ』リズムを、もう一度、整理する必要があると思います。どういうことかということ、「あいち『ツウ』リズム」とは、「人・物・事」に関して、期待以上、想定以上の価値を顧客に届けることなんですと、愛知県の『ツウ』リズムは。では、その期待以上の価値とは何か。それは新規性だったり、独創性だったり、いわゆる、唯一、ここにしかない価値みたいなことをコンテンツ化していく、と。他の地域でも似たような取組をしたときに、どういうプロセスで進めていったのかを参考に話します。まず、①この『ツウ』リズムのカテゴリー化。どのカテゴリーで、愛知県は『ツウ』リズムを徹底的にやっていくのか。②それを先ほど言った価値に変えるコンテンツ化をどうつくるのか。③それをストーリー化して話さないと、当然、圧倒的な価値にならないので、ストーリー化が必要です。④最後、それを表現する表現家、プロフェッショナルなガイドが、多分つながってくるでしょうと。

そこに、デジタルとイノベーションを、どのように絡ませるのでしょうか。『ツウ』リズムを求める顧客の利便性を考えたら、ネットの世界の中で、全部、完結する世界をつくっていく必要性もあるでしょう。例えば旅中のときに、リコメンドがデジタルで入っていくように、あるいはデジタルでプロフェッショナルガイドの情報を旅行者に伝えていく。アナログじゃなく、デジタルで伝えていくといった、一貫通貫した観光施策の方向性を明確にできるのではないのでしょうか。

○赤崎委員

「基本方針」と「施策の柱」が、きちんとリンクしていない感があります。そして、沢登委員も最初におっしゃいましたが、目指すべき姿のこの文言が、目的と手段が混在しているんですね。デジタルとイノベーションってのも、これはあくまでも手段の話なので、「目指すべき姿」から取った方がよいと思います。そして、もっと分かりやすく、

伝わりやすい表現で、愛知県らしい魅力はこれなんだ、ということが分かるようにした方がよいのでは。

また、観光における「持続可能」が一体何なのかは、しっかり説明しないとイケません。さらに、「イノベーション」は、ものづくりの人たちならばっとイメージが浮かぶと思いますが、観光業界の人たちにイノベーションって言っても、よく伝わらないのではないのでしょうか。それでは、掲げても意味がないです。観光における DX、イノベーション、持続可能の中身は何なのか分かるように、それが施策の柱としてきちんと表現されているというように整理をし直したほうがよいのではないのでしょうか。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。では、板垣さん、いかがでしょうか。

○板垣委員

私は、まずは MICE についてコメントさせていただきます。愛知県国際展示場を含めと記載されていますが、MICE は国際会議や展示だけではなくて、インセンティブ旅行もありますので、そういったところを含めると、必ずしも国際展示場だけではなくて、愛知が持つ MICE のコンテンツも含めて、記載いただいたほうがよいと思います。また、今後は、住民の方にとっての MICE 誘致のメリット、MICE を通じたレガシーを残していくことを意識してやっていかなければいけないので、レガシーについても、追記していただきたいです。

あとは、観光資源の高付加価値化や PR・プロモーションですけれども、どちらにもジブリパークの記載があります。ジブリは、愛知県の中で主要なコンテンツの一つだと思いますが、何回も出てくると、逆に、それだけなのか、という印象を持ってしまいます。県としての取り組みであれば、県全体の観光魅力の掘り起こしとか、それによる観光の広域化が出てきてもいいのではないのでしょうか。PR・プロモーションのところには、適切なターゲットに魅力を訴求すると書いてありますが、どういった人たちが愛知県を訪れているのかといった訪問者の属性データ収集・分析もやっていかなければならないのではないのでしょうか。以上です。

○榊原オブザーバー

すいません、いいですか。

○大澤部会長

お願いします。

○榊原オブザーバー

昨日の議論を少し、事務局から、簡単にご説明をいただいといたほうが良かったかと思いますが、まず 1 点。「デジタルとイノベーションで追い上げる」って、目指すべき姿を記載されていますが、「追い上げる」というのはちょっとどうかな、と感じました。「あいち『ツ

ウ』リズム」を深掘りをしてくんだったら、そこをもう少し強く出して、目指す姿を出していったほうがいいのではないのでしょうか。確かに、デジタルとイノベーションって手段ですので、そこを目指すべき姿の中に記載するのは、ちょっと変ですね。小さな字で書くとか、工夫した方がいいと思います。

あと、施策の柱ですね。先ほどから、ご意見がありました。この目的と基本方針、目指すべき姿のデジタルとイノベーションと政策の柱が、うまくリンクをしていないですね。ただ、デジタルとイノベーションを使って、施策の柱の観光資源の高付加価値化、プロモーションやるということをお願いしたいのですが、分かりにくいです。住民の方、訪れる方、プレイヤーの方が、この戦略をみても彼らに何も伝わっていかないと思います。

先ほど、板垣委員も、おっしゃられていますけど、ジブリパークが何度も出てきて、また、MICEの愛知県国際展示場も然りですが、県がやっていることだけでなく、広い観点で、整理していただくと、分かりやすくなると思います。

○大澤部会長

この辺は特別な思惑はありますか。ジブリと国際展示場を知事が推している、そういう事情があるんですか。

○渡邊課長補佐

特別な思惑はないです。これは愛知県の計画なので、愛知県が持っている資源を強く出したということと、国際展示場については、うちがまさに所管している施設ですので、ということはありません。あくまでもアンソロジーの一つだという思いでしたが、ただ、今、ご意見いただいたとおり、読んだ方がそう受け取らなかったってということなので、そこは配慮して書いてく必要があるのかな、と思いました。

○大澤部会長

はい。では、あと二神委員、いかがでしょうか。

○二神委員

私がこの1、2週間、いろいろと持続可能なモデル事業等の議論の中に参加して思っていたのが、「持続可能な観光」の鍵となるのはマネジメントができる組織づくりだと思います。デジタルとイノベーションを使いこなし、モニタリングをし、プロモーション、それから管理していく側の指標を使いこなすための組織づくりです。

これが自治体だと、どうしても人が入れ代わるので人材が育たない。県が、まず全体のプランを打ち立て、それに基づいてDMOが中心となって持続可能な観光地域づくりを進めるための青写真が描けると、一年一年、計画が進んでいることが実感できます。モデル事業の申請だけのためにやっているところは、何が足りないかという、そういうマネージする組織づくりです。ですから、例えば連携のための会議をやっているとか、そういう管理運営上の指標がどこかに入ってくると良いと思いました。

ただ、もちろん、現実的に、五つの柱を変える必要はないですが、例えばPR・プロモーションのところなどは、DXの観点での情報発信の仕方とか、情報収集とか、マーケティングなどでより具体的な方針を示すことができると思います。以上です。

○大澤部会長

はい。連携先って「県域DMO」がありますが、DMOはマーケティングアンドマネジメントなので、二神委員が言われたように、持続可能な観光地づくりにおいても、大きな役割を果たしてくれことを期待したいです。もうちょっと踏み込んで、今、言ったような、持続可能な観光地づくりに関するデータの収集と分析など記載できるとよいと思います。県域・広域のDMOの役割は、マネジメントが強調されるのかなと思います。

もう一点、国との連携も進めていくことになると思います。また、国際機関とも連携することもあるかもしれないので、大きな主体との連携窓口に県になっていただきたいです。国や他県との連携についても触れてほしいな、というのはあります。

では、他の方向かございますでしょうか。

○沢登委員

皆さんのお話を聞いて、この目指すべき姿の表現を再整理したほうがいいですね。あらためて思ったんですね。どういうことかという、『ツウ』リズムは、「2.0」としてこの先もずっと取り組んでいくんだという意味を示していると思います。こうなると、最後が、「持続可能な」というのが弱いです。例えば、愛知県の中で新しい成長産業を観光業として、そこを生み出しに行く。その基盤をつくる。今後は観光産業に本気で力を入れていく。今後の成長産業は、数が限られています。この観光産業を成長産業として位置付ける。その基盤を生み出しに行くということ、目指すべき姿として表現するのがいいのではないのでしょうか。基本方針として、持続可能な地域づくりとデジタルとイノベーションっていうふうに置くほうが、これを見た事業者の方も、熱意と方向性が見えてくるのではないのでしょうか。ツールを目指すべき姿のとして表現するから、違和感があるのではないのでしょうか。

そうなると、施策の流れも、『ツウ』リズムを展開するとき5本柱があって、「デジタル」と「イノベーション」と「持続可能性」が横串になっているということであれば、非常に理解しやすくなる。

○大澤部会長

はい。確かに、基本方針の3本柱のところを並べて目指す姿になるのではなく、「目指す姿」を別に表現していく方が、いいと私も感じました。

目指すべき姿には、愛知らしい、モノづくりで培ったような技術、愛知県の技術を使って、愛知県らしい観光を実現していくっていうことか、そういったイメージが伝わるようなフレーズになったらいいのかな、と思います。

では、ここまでのところは、よろしいでしょうか。

○荻野オブザーバー

オブザーバーの荻野でございます。本日はありがとうございます。

私も実は昨日から参加させていただき、2日目になります。いろいろと昨日、発言させていただき、昨日は結構、デジタルに明るい委員の方が多かったので、観光DX寄りの話がかなり深く議論されたというふうに記憶しております。

今日、またメンバー、委員が変わるとこれだけ、違う議論になるんだなということで、大変勉強させていただいております。

目指すべき姿のところの議論に戻りますが、このフレーズ、先ほど赤崎委員や沢登委員が、コメントされたように、この表現ですと難しく、関係者は受け取りにくいのではないかと感じますので、観光を新しい成長産業として捉えるのは、大変よいフレーズだと感じました。

私、一番初めの自己紹介のときに、「新潟県で旅館やっていました」とお伝えしたとおり、新潟県の県の観光の取組にも、携わっていました。観光県といえる新潟ですら、自分たちを観光県と言ったこと、記憶にないので、愛知県の観光戦略に「観光県」といれるのであれば、そこに対する思いが非常に重要なのかなと感じます。先ほど、委員の方から、その「目指すべき姿」ということを公にしたときに、観光の従事の皆さまが、これから、いろいろと県と一緒に取り組んで「この地域、観光で元気にしていきたいな」と思っていたような、メッセージが必要なのかなと、私も感じていたところでございます。

あと、管理指標のところの、「あいち『ツウ』リズムのバージョンアップ」の中での「主なツウ分野」の例示に「武将と産業」が挙げられていますので、産業観光についてコメントさせていただきます。私も豊田市で観光に取り組んでいた時、たまたま、愛知の「DCキャンペーン」のタイミングだったので、愛知県と一緒に、キャンペーンに取り組みました。その時、「産業観光」を大きく掲げていました。実はインバウンドのデータを取りますと、このエリア、まだまだ、ビジネスでお越しいただく方が圧倒的多いです。例えば、ブレッジャーやワーケーションなどというところは、仕掛けようによっては、当然まだ伸びしろだと感じます。ビジネス客が必ず産業観光に行くというわけではないですが、しっかり連携していくことは重要です。私、中央日本総合観光機構も、東海エリアと北陸エリアと広域で見ているものの、東海エリア、北陸エリアは、モノづくり産業が強いので、モノづくり産業の皆さまとの連携は、意識をして取り組んできました。感想でございました。ありがとうございます。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。

では、続きましては、「数値目標」及び「進捗管理指標」について議論していきたいと思っておりますので、事務局の説明をお願いします。

議題3 「数値目標」及び「進捗管理指標」について

○渡邊課長補佐

では、議事のうち、最後の二つになりますけれども、「数値目標」と「進捗管理指標」について説明をさせていただきます。

まず3年後に到達する目標として掲げる「数値目標」でございますけれども、こちらは前回から変更していません。現行の計画のKGIと同様で、「質」である「観光消費額単価」と「量」である「観光入込客数」を両輪として、「観光消費額」を掲げております。

それから、3年後のゴールを「数値目標」、ゴールイメージを「目指すべき姿」として捉えております。「持続可能な観光の実現」、それから「観光DXの推進」「イノベーションの創出」、さらに「あいち「ツウ」リズムのバージョンアップ・再構築」において、それぞれ管理指標を設定しております。こちらは、それぞれの指標で、目標を明示するものではなく、どちらかというところ現在のポジショニングを関係者間で把握し、各事業において次のステップに進むために、活用していきたいと考えております。

なお、前回の会合におきまして、「持続可能性」と「ツウ」を測る指標についてご指摘いただきましたので、その部分を中心に拡充しましたが、ここは、また皆さまから、アイデア、意見をいただければと思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大澤部会長

ここでは、先に議論した、目的にすべき姿、実施方法、施策の柱等も含め、ご意見いただければと思います。

私から、最初に質問ですが、昨日の会議では、この管理指標の観光DX推進については、どのような意見が出ていましたか。

○渡邊課長補佐

この観光DXの推進に出ている、この三つの指標については、必ずしも「目指すべき姿」とリンクしているわけではないよね、というご指摘はいただいております。それを受けて、事務局サイドとしても、必ずしも公式サイトでのページビューとか、SNSのフォロワー数っていうのが、観光DXの推進になっているかということ、それは、また別の話だと認識はしています。一方で、昨日もお話ししましたが、「愛知観光動態ウォッチャー」の参画市町村数については、各市町村さんが人流データとかを見られる県で環境をつくっていて、こちらのデータ確認している市町村数になります。データをみて、各市町村さんなり、観光協会の皆さんが、コンテンツ作りやPR・プロモーションの施策を練っていただくことを期待しており、唯一、これは「観光DXの推進」に直結しているものかなと思います。そういったことから、「愛知観光動態ウォッチャー」の参画市町村数以外はKPIにふさわしくないかも

しれないとお答えしております。

○大澤部会長

管理指標については、もうちょっと議論の余地があると思いますが、それも含め皆さん、いかがでしょうか。

○沢登委員

県全体の管理指標と今回の取り組んでいくときの事業指標は、分かれていた方がいいと思います。『ツウ』リズムを施策の中心として動かしていくのであれば、この『ツウ』リズムという施策が、どういう評価になったのかを、例えば『ツウ』リズムのプラン数であったり、満足度であったり、そして、この『ツウ』リズムをデジタル化で推進していくのであれば、デジタル化の定めた目標に対してどうだったのか。この『ツウ』リズムという事業に対して、イノベーションを起こしていくことができたのか。例えば、今まで関わらなかった、ものづくり企業が、何社、この取り組みに入ってきたのかとか、そこから生まれたイノベーションは、どういうものがあつたのか、など。つまり、基本方針に対してそれぞれ管理指標を置くのではなく、愛知県の目指す『ツウ』リズムを評価していくことが重要です。『ツウ』リズムが愛知の観光、この戦略の中心に位置している理解しているので、そのポジションが違うのであれば、また違った考え方になるかと思います。今までの議論から、管理指標の考え方もツールを管理する指標ではなく、県が押し進める姿勢に対する指標を設定する必要があります。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。その他の方から、いかがでしょうか。

○板垣委員

先ほど、進捗管理指標については、特に目標を定めるようなものではなく、現状の立ち位置について、ということをおっしゃっていたと思いますが、今後、こちらは毎年の取り組み状況を公表していくお考えでしょうか。先ほど、二神委員から、マネジメントの重要性についてご発言があったところですが、進捗を公表するということが、非常に重要ななと思いましたのでお伺いできればと思いました。

○大澤部会長

事務局から、いかがでしょうか。

○渡邊課長補佐

ここに挙げているものは毎年、年次報告していくことを想定しております。

○板垣委員

はい。ありがとうございます。

○大澤部会長

秋にやっている会議ですか。

○渡邊課長補佐

そうです。

○大澤部会長

私から、加えてですが、進捗状況は現場の方まで届いているものでしょうか。

○渡邊課長補佐

記者発表して、県のサイトに公表もしていますので、アクセスしようとするれば、どなたでもアクセスはできます。ただ、積極的にこちらから観光関連事業者の方に、周知するといったことは、現在、行っていないところです。

○大澤部会長

進捗状況についても、きちんと伝えていった方がいいというのは感じました。

○板垣委員

サステナビリティの進捗状況については、日本国内だけではなく、海外からもアクセスできるようにしていただいた方が良くと思います。特に MICE の誘致については、地域の持続可能な取り組みが非常にキーポイントになっています。最低限、英語で情報発信をしないと、せっかくの取り組みが伝わりません。全てでなくても良いので、積極的に取り組んだ事項は、英語で情報発信することを進めていただきたいです。以上です。

○大澤部会長

どうぞ。二神先生、お願いします。

○二神委員

細かい話になりますが、持続可能な観光の実現の進捗管理指標のところ、一番最後の、「持続可能な MICE 推進に係る国際指標取得件数」ですが、これは「国際指標取得」ではなくて、「国際認証取得」だと思います。

また現在、ご存じのように GSTC が MICE の世界基準として GSTC-MICE 基準を今年度中に策定することを目指して動いています。但し、その認証取得になるには先の話なので、MICE に限定してしまうと、件数が少なくなると思われます。さらに持続可能な推進に係る「国際認証」の取得になると、非常にハードルが高いため、認証とか、ラベルとか、アワード・表彰ぐらいと幅広くし、「持続可能な観光の推進に係る認証取得等の取り組み件数」として

おくとよいかと思います。例えば、荻野さんの中央日本総合観光機構が推進しているサクラオリティ認証を取ろうとしている宿泊施設は、結構、数が増えています。それから、プラス ESG のグリーンラベルの取得も、今、増えています。そうすると、それが、この件数に入る宿泊施設となり、さらに地域でもアワードに挑戦しトップ 100 選に選ばれた南知多のような所も入ってきます。ということで、できる限り網羅できるようにしておかれるとよいと思います。

それから、先ほど沢登委員が言われたような、事業指標と結果指標というのは、結局、アウトプットとアウトカムのことだと思います。アウトプットは、このような事業に取り組んだ数となります。アウトカムというのは、それで実際にどのような成果につながったかということになります。ただアウトカムに持っていくのは非常に難しいため、まずはアウトプットの数把握することです。さらに、その結果としてどのような成果（アウトカム）が出たかを検証していくことが重要だと思います。以上です。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。それでは赤崎さん、いかがですか。

○赤崎委員

恐らく、手段として非常に重要なのが、観光 DX とイノベーションだと思います。その割には、ここに出ている指標がちょっとしょぼいかなと。

管理指標をみても、観光におけるイノベーション、特に愛知県の観光推進におけるイノベーションが一体何を想定してるのかがよく分からないです。

○大澤部会長

はい。ちなみに、その点について、私も質問がありますが、愛知県はモノづくりでも、イノベーションとか DX は盛んに進められていると思います。製造業は、どういう指標を設けて、どういった取り組みをしているかわかりますか？

○渡邊課長補佐

今、大澤先生がおっしゃったのは、いわゆる「経済労働ビジョン」のようなものの中で、どの様に「イノベーション」の指標が設定されているかという意味合いですか。

○大澤部会長

県レベルでもいいですし、産業界でもいいです。イノベーションと DX っていうのは、どういう指標で測ろうとしているのか分かりますか。

○渡邊課長補佐

そこに対してのアイデアがなかったので、把握はできていないです。今、先生、おっしゃっていただいたのが、ヒントになるので調べてみたいと思います。

○赤崎委員

製造業界では、イノベーションの類型化を先にやりますね、収集した実例を元にして。その類型化作業を経て、カテゴリイズした後、評価や審査の基準を作るという進め方が多いと思います。

○大澤部会長

確かに、どの辺のイノベーションを起こしてほしいのかってところを類型化して、きちんと数値で評価できるようにしておくが良いかもしれませんね。

○赤崎委員

そうですね。目指すべき姿が整理されていれば、そこを目指して、愛知県的にはこういうイノベーションが起こってほしいという例示もできるのではないのでしょうか。

○大澤部会長

DX を使って、観光客の利便性などが、どれぐらい上がったのかを測れるとよいですが、その辺でも製造業の力を借りて具体化できるような気がします。

二神委員、今、観光における持続可能な認証制度とか、アワードというものはどのような状況でしょうか。

○二神委員

今、一番進んでいるのは、やはりホテル業界です。インバウンド観光で求められているということもあり、宿泊施設等はかなり認証取得に積極的です。そういった施設が優先的に選ばれる傾向にありますので。昨日、「サクラクオリティ」を管理する観光品質認証協会の北村統括理事とお話ししましたが、かなり申請施設が増えてきていることがわかりました。今後は特に、MICE 関連では、宿泊施設の取り組みもかなり重要視されますので、宿泊施設では本格的に進んでくると思います。

ただ、認証にも複数のレベルがあります。段階的なアワードの受賞、それから認証ラベルの取得ということで、事務局サイドで、取り組んでいる件数の全体数を出して、本当にトップレベルの認証を取得しているのはどの施設かということを一覧化し、情報把握した方がよいと思います。

もう一点として、持続可能な観光ということで気になるのは、やはり「環境」が抜けていることです。特に国際会議では、廃棄物や CO2 排出量をいかに削減してやっていくかというところ。観光と環境は、行政では縦割りで対処されていますが、持続可能な観光では、環境部分も入っています。こうした環境関連指標のモニタリングこそデジタルツールを活用して、推進されるとよいと思います。最終的には、持続可能な観光とは、住民をはじめとする利害関係者のウェルビーイング（幸福）と同時に、プラネット（地球）の環境のための施策をしていく必要があります。日本の一人当たりのフットプリントはバイオ

キャパシティの 7.7 倍で、本来、われわれが、この国土で使える以上の自然資源を使っています。ウェルビーイングは、もちろん重要ですが、環境についても考慮に入れていただきたい、ということです。以上です。

○大澤部会長

ありがとうございます。

その他、皆さんほうから、何かありますでしょうか。

○板垣委員

海外のミーティングプランナーも「全てのプレイヤーが国際認証を取る必要性があるわけではない」とおっしゃっていました。大きな国際会議場だとか、主要な施設では必要かもしれませんが、そうでないところは、国内の認証でもいいので取得を進めていくことが重要です。進んでいるコペンハーゲンなどは認証を取得するに当たって助成金の拠出もしています。こういった取り組みもこの先重要になってくると思います。

また、国際会議の誘致においては、会議場等で再生可能エネルギーの活用、雨水の利用といった環境配慮の取り組みが求められます。こうしたところに対する補助や、施設改修の支援ができるのであれば、対外的にきっちり情報発信をしていくことも重要です。以上です。

○大澤部会長

ありがとうございます。

○赤崎委員

観光 DX の推進やイノベーション、持続可能な観光の推進は、今の愛知県の観光業界の現状からすると、大変ヘビーだろうという気がします。考え方は否定しませんが、実情からはかけ離れた議論ではないのでしょうか。製造業界ですら、デジタルの活用は、大企業や中堅企業はともかく当地域の中小企業にとっては時期尚早だという話もよく出ます。製造業でさえそんな状況なので、観光産業ではもっとそうだろうと思うんですね。一つは、どうやったらいいか分からない。次には、お金もかかるでしょ。さらに、人がいない。現実的な課題をいっぱい抱えたまま、でも何かやらないといけないのでは、と悩んでいるのが実情だと感じています。

この現状を変えていくのは非常に重要なので、「デジタルとイノベーションで追いつける」という、その意気は素晴らしいと思います。が、現実的に事業者さんたちを支えていくために、何をすると一番前進できるのか。それは、補助金かもしれないし、手法についてきちんとレクチャーすることなども必要で、それこそがプレイヤーではない自治体がやるべきことだと思います。

「デジタルとイノベーションで追いつける」とは立派な看板ですが、それに見合う具体的な施策があるのかなと、ずっともやもやしています。できること、できないことはあり

ますし、できないことを書く必要はありませんが、看板と実際の施策の間で乖離がないようにしていただきたいです。

○大澤部会長

はい。ありがとうございます。

○沢登委員

事務局に質問です。『ツウ』リズムを推進するときに、基本方針三つをちゃんと意識してやっていくということに、県としてはそこにスコープを当てているんだと捉えましたが、あっているでしょうか。ということが一つ目です。

二つ目は DX のお話、最後にもあったと思いますが、これから事業者の DX も大事ですけど、地域全体としてどう観光 DX を進めていくのか。観光 DX のモデルとして、どういうことをイメージしているのか。どこをどういう順番でやってくのか。ここを出していくことがすごく重要だと思っています。私自身は、地域の観光 DX は 4 つのポイントが連動していく必要があると考えています。4 つのポイントとは、①事業者のテクノロジー化です。事業者の生産性を上げていくってことです。でも、ここには予約化とか、キャッシュレス化っていうものも、ここの中に入っています。②二つ目の顧客の利便性の向上。顧客は、旅前、旅中、旅後と、もうネットの世界で、一気に通貫で完結する、この利便性を求めています。この事業者のテクノロジー化と顧客の利便性、上がっていくと、当然デジタルデータが地域に、山ほどたまってきます。そこで、③地域の経営組織。これ県なのか、DMO なのか、他のところなのかという整理が必要になりますけど、そこがデータを見て、ちゃんと意思決定していく。この絵を描いて推進していくとか、あるいは、たまったデータをちゃんと意思決定に反映していく、課題を分析していく。こういう DX 人材の調達と育成が、すごく重要になっています。この 4 つ進んでいくと、地域の観光 DX のありたい姿に到達できると思います。そのために、まず何から始めますか。ファーストステップどうしますか。セカンドステップどうしますか。そして、県、市町、DMO、事業者、どういう役割分担でやっていきますか。もしかすると、観光 DX の推進していく絵を描いていく、っていうのが実はすごく重要じゃないでしょうか。というのが 2 点目です。

○大澤部会長

最初の前段部分の質問については、事務局の方でいかがでしょうか。

○渡邊課長補佐

はい。今、沢登委員がおっしゃっていただいたとおり、こちらで意図していたのは、「あいち『ツウ』リズムのバージョンアップと再構築」っていうのは上位概念であって、その下につながる三つは、そこへ到達するための手段です。沢登委員、ご指摘のとおり、そういう指標の選択になってないんじゃないかというところは、いったん受けとめて、また考え直しをしていきたいなってふうに思っています。

○沢登委員

そうすると、『ツウ』リズムというのが、やっぱり上位概念に入ってきているってことで
すか、これは。

○渡邊課長補佐

はい、そういう理解です。

○沢登委員

なるほど。そうだとすると、指標のところでズレが起こっていますね。

○渡邊課長補佐

はい。承知しました。

○大澤部会長

はい。もう一つ、デジタル化のステップの中で、どの辺からやっていくのかという、デ
ジタル化を推進するためのロードマップとかがあるといいと思います。先ほど、赤崎委員
が言われたとおり、事業者の皆さんに何らかのインセンティブがないと、なかなかデジタ
ル化って進まないものですので、事業者の方に何かメリットがあるところを指標にして、
旗を振って、それからデジタル化を進めていく等、組み立てを考えていかないといけない
と感じました。

沢登委員が、きちんと整理して説明してくださったので、具体的な指標に落とし込む段
階で、先ほどの四つのステップのうちどこにフォーカスをしていくのかというところが明
確になると、観光DXの推進についての指標はもう少々具体的になってくるのではないで
しょうか。特に、フォロワー数とか、ページビューとでなく、事業者の方に問い掛けられる
ような指標があってもいいと感じました。

○板垣委員

これまでの議論の内容を知らない人が資料を見ると、そもそも「あいち『ツウ』リズム」
ってというのは何なんだろうと感じるのではないのでしょうか。

○大澤部会長

はい。そうですね。その「2.0」掲げる前に「1.0」は何なのかと、ちゃんと示しておかな
いといけないというのは、そのとおりだと思います。その他ありますか。

○赤崎委員

ペーパーをお作りになるときに、A3ならA31枚にきれいにまとめたいとか、そういう意
識ってどうしてもあると思うんです。トヨタさんなんかでもやってらっしゃいますけれど

もね、全容をまず1枚にまとめる。けれども、当然ながらA3の紙1枚では書き切れないわけだから、『ツウ』リズムって何?とか、イノベーションってこの場合は何を指していますとか、観光DXってこうだよっていうのを、後ろのページに注釈でどんどん付け足していただければ、初めて聞いた人でも分かりやすいものができると思います。

○大澤部会長

はい。先ほどの沢登委員から指摘があるんですけども、『ツウ』リズムが「目指すべき姿」ということであれば、それが伝わるようなものがこのA3の中にきちんと書かれていることが望ましいです。新たに愛知県の観光戦略の議論に入ってい頂いた方にも伝わるような表現をしてかないといけないのかな、と思いました。

その他、何かご意見ありますでしょうか。

○荻野オブザーバー

オブザーバーの荻野でございます。よろしいでしょうか。

昨日の部会でもお話しさせていただきましたが、再度お話しさせていただきます。中央日本総合観光機構としても観光DXを推進していますが、観光DXは、非常にお金がかかる、また、一度走り始めると、継続的に取り続けないと、指標、比較ができない、分析ができないのは、当然、皆さま、ご承知のとおりだと思います。DX推進を掲げる以上、その部分は常に付いてきますよ、というような話をさせていただきました。

あと、今「あいち、『ツウ』リズム」という話が出たので、私も実は今年から参加をさせていただいたメンバーというか、オブザーバーであるものの、実は、この『ツウ』リズムという、内々の皆さんの目標とか、ミッション、ビジョンのようなものというのは、大変素晴らしいなと思っている一方で、実はこのところ、愛知県の作成するパンフレットにも、『ツウ』リズムって大きく書いてあるのをみても、今一つ、それが何なのか伝わってこないところもあります。いろんな組織や会社でも、説明しないと伝わらない、ミッション、ビジョンを、いきなりお客さまに伝えることは、少々難しいことだと思います。ただ、そもそも楽しい、わくわく感を伝えなければいけない観光として、あいち『ツウ』リズムというもの、実は、何となく違和感がありました。言葉遊び的には分かりやすいので、内々のメッセージとしていいと思うのですが、外に向けての発信ではないのかなというのは、感じていました。いろんな議論の末、そうなったのかもしれませんが、感覚として思っていたところ、私見でございます。

あと、もう1点、高付加価値化というのが、柱に示されているものの、役割分担の中には、宿泊、運輸、飲食、旅行業などのところにしか高付加価値化が記載されていません。高付加価値化というのはサービスの直接的な提供、開発だけでなく、いろんな捉え方があると思いますので、この辺りも整理されるとよいのかなと思います。以上でございます。

○大澤部会長

はい。ありがとうございました。

この後は、各班長から質問を受けたらいいんですか。

○渡邊課長補佐

こちらサイドで、ご質問のある方は。

○大澤部会長

逆に、班長さんの側から今までの議論を聞いていてどうなのかというのを伺っていいですかね。いかがでしょう。

○松永室長補佐

恐れ入ります。国際観光コンベンション課、国際展示場室の松永と申します。よろしくお願いたします。

今日、いろいろ議論を、お伺いをしておりまして、今回の計画では持続可能性というのが非常にポイントになってくるかな、と思っております。それで、個別のMICEの施設ということで、観光コンベンション局では、愛知県国際展示場、Aichi Sky Expoを所管しています。

こちらの施設ですが、2019年にオープンをした新しい施設で、最新の環境配慮型の展示場というのをコンセプトにしている施設でございます。例えば、自然エネルギーを活用するというので、太陽光を取り入れた自然採光ですとか、あるいは自然の風を取り入れる自然環境。あと、太陽光発電ですとか、「サステナブルな低酸素型の展示場を世界に発信したい」というのを意図して、建物の設計を行っているところでございます。実際に、例えば「省エネ大賞の会長賞」ですとか、あるいは「カーボンニュートラル賞」、こうした環境配慮に関する賞なども、多数受賞していますが、こうした強みがなかなか主催者に届いていないのかなと感じています。

先ほど、板垣委員の方から「情報発信が重要だ」というようなお話もございましたけれども、こうしたサステナブルな部分、高性能を情報発信していくにあたって、「こうした点に留意するといいいよ」ですとか、「こうした点を強調していくといいいよ」というのがあれば、ご助言、アドバイス等いただければ、幸いです。

○板垣委員

「Aichi Sky Expo」のWEBサイトについて、まだ確認していませんが、まずはサステナビリティの取り組みに関して英語での情報発信がきちりあるか、ということと、また、賞などを取っていらっしゃることであれば、賞を受賞した省エネやカーボンニュートラルの取り組みによって、省エネがどのぐらいできているのか、数値できちり情報発信をすることが重要だと思います。

過去にあった事例ですが、海外からミーティングプラナーの方に視察に来ていただいた際に、非常に先進的な取り組みをしている施設であるにもかかわらず、視察のときに、そ

ういったことを一言も、ご説明されなかったことがありました。この会議場は何平米です、こういった開催事例がありますといったに終始せずに、伝えるべき取り組みが本当に主催者に伝わっているのか、ということについて、もう一度、工夫をしていただくことが必要かなと思っています。

また、私どもでは、LinkedIn 等で海外の MICE 事業者向けの情報発信をしていますので、積極的に情報をいただければ、こちらでも発信させていただくことが可能です。JNTO のネットワークだけでなく、海外の見本市など、あらゆる機会を通じて、いろいろなチャンネルを使って情報発信をしていただくということが必要だと思います。

○松永室長補佐

ありがとうございました。

○大澤部会長

ありがとうございます。

せっかく象徴的な設備があるのであれば、もっとその辺を深めた柱の書き方をしてもいいのかなという気がします。持続可能な取り組み、戦略的な誘致活動について、十分に宣言できるのではないかと思います。愛知県の戦略で毎回感じるのは、MICE は一応書かなきゃいけないから書いているという印象です。今回も、そのような感じかなと思っていましたが、よい施設を生かした戦略的な誘致に取り組んでいきますといったことを記載できれば、愛知らしい感じがしていいのかな、と感じました。

あと、先ほど一つ言い忘れましたが、ジブリパークもやはり、Aichi Sky Expo と同じように象徴だと私は思っています。あいち、『ツウ』リズムを非常によく分かりやすく表現しています。ですので、ジブリパークのような長く愛され、コアなファンに強く訴求するコンテンツが愛知の観光の在り方なんだというようなことが伝わるような書き方がいいのでは、と感じました。

はい。榊原さん、お願いします。

○榊原オブザーバー

資料の各主体の役割についてです。先ほど、荻野さんからも意見がありましたが、私どもも地域の DMO でも、同じようにデータ収集については非常にお金かかるという課題を抱えています。予算が限られている中で動いてくところでは非常に大変です。ここについては、県が、DX を進めていくと方針を示すのであれば、何らかの補助がないと難しいな、というところがあります。もう一つ、各主体の役割についてです。市町村とか地域観光協会の役割。広域・県域 DMO の役割、それぞれ書かれていますが、誰が、どこまでの役割を担って、進捗をどう管理されていくのか、教えていただきたいです。

○大澤部会長

はい。事務局の方では、いかがですか。

○渡邊課長補佐

資源は地域にあるというところに立脚した考え方ですので、地域の皆さま方が資源の磨き上げ、商品化について、主たるプレイヤーとして取り組んでいただきたい、と期待しているところです。当然、広域自治体側の役割としては、地域資源を持っている市町村や地域観光協会の取り組みをバックアップしていくことだと考えています。バックアップとは、経済的、あるいはノウハウの集約と発信、交流の場をつくるといったことだと感じています。

県域・広域 DMO の皆さま方の役割に、広域データ収集及び分析と記載していますが、これは、マーケティング・マネジメント組織は、DMO が主体的に担ってくださる方がよいだろうということで全国的にも整理をされてきていますので、その様に記載しています。商品造成も同様ですが、今、現在、愛知県においては、DMO が主力となる部分へも、行政が関わっているところがありますので、これはいずれ議論が必要になってくるんじゃないかな、と感じております。

○榊原オブザーバー

ありがとうございます。県の協会としても、しっかり地域のバックアップをしなければならぬということで、各市町にヒアリングをしながら進めています。各市町の担当者からは、地域資源の発掘等、やるべきことをやろうにも、「財源がない」とおっしゃっています。そのような中で、我々としてもどこまでバックアップができるのか、というところがあります。広域である中央日本さんも、同じ課題感を感じられているかもしれませんし、DMO の抱える課題も調整していただけるとありがたいと思っています。以上です。

○大澤部会長

荻野さん、お願いします。

○荻野オブザーバー

我々は、おかげさまで観光庁様や JNTO 様とも連携を強化しておりますので、そこは、しっかりと橋渡し、つなぎ役になり、国や他県の皆さまとの連携を是非深めていきたいなと思っています。9 県もありますと、温度差がかなりあります。今回、たまたま愛知県観光振興基本計画検討のオブザーバーとして携わらせていただいているので、愛知県様との連携、広域連携 DMO と地域連携 DMO、要するに県の皆さまとの連携のあるべき姿というところを、是非形づくり、そこをまた他の県の皆さまとも水平展開しながら、このエリア全体で連携を高めていきたいなと思っています。

○大澤部会長

はい。その他の方から、いかがでしょうか。

今、委員の方から意見をいただきましたが、これは今後具体的な施策に落とし込まない

といけない話です。今日みたいな議論を通じて、班長の皆さんは、こういう施策をやったらいんじゃないかとか、こういうふうなやり方で具体化していったらいいんじゃないかというような点について、イメージが湧くんでしょうか。

○渡邊課長補佐

まとめみたいな話になって恐縮ですが、今回いただいた議論は、県側と言っていいか、私個人と言っていいか分かりませんが、かなり、徹底的に打ちのめされたなという気がしています。ただ、今、A3の中で全てを表現しようとしているので、どうしても伝わりきらない部分は、少なからずあるかなと思います。さっき、赤崎委員がおっしゃっていただいたように、注釈を付けていくという作業が基本的には本文を書いていく作業につながっていくので、次回、要は「素案」という形で、本文でご提示することになると思います。そこで、またご意見をいただくことになるのかな、と思っています。

今度は本文から見直して、その抜け漏れがない形で、お見せできるものができるといいと感じています。

○大澤部会長

多分、A3にまとめるっていう作業は難しいとは思いますが、それだけに、本当に伝えなければいけないことは、何なんだろうということが考え抜くんだと思うんですね。この目的に向けて、どう組み立ててくのかという話をしていくと、目指すべき方向が一致するような計画が作られていくと思うので、その意味で、皆さん、議論して、まとめていただければと思います。

それは私たちも同じで、こういう会議をやると、どうしても委員から言われたことを何とか盛らなくちゃいけないと。委員の声が出てきたら、それをどんどん組み込んでいくような感じになってくるんですけども、われわれとしては、そういう意図は持ってないです。いろいろと意見を出しながら、皆さんの整理のプロセスを共有していきたい。どういことが大事で、どういう点をクリアにしないではいけないのか、ということ共有しながら話をしていきたいと考えています。我々は、皆さんと一緒に作っているパートナーだという意識で発言をしているっていうことを理解していただいた上で、次のステップにまとめていただければと思います。是非、班長さん方のさらなる練り上げを期待しております。

○渡邊課長補佐

温かいお言葉ありがとうございます。その言葉を胸に、次のステップへ進みたいと思います。

○大澤部会長

本当に、話しながらじゃないと、まとまってこない部分も多々あると思います。

○榊原オブザーバー

最後に、宿泊、運輸とか、関係事業者も役割を持ってくださって書かれる以上は、関係事業者に対して状況説明は、是非しっかりやっていただきたいなと思います。観光の計画は、色々な方が関連しているので、学識者や有識者の方の意見を計画に反映するのは当然かもしれませんが、机上だけで計画を作るのはいかななものかと思います。事業者側の意見も吸い上げていただけるように、お願いをしたい、と思います。以上です。

○大澤部会長

重要なお指摘だと思います。計画作り自体が目的ではなく、これ自体が観光振興のプロセスだと私も思っています。できた時点で、関係者が、これに向けて頑張ろうと感じられることが、一番理想的です。県はこんなこと言っているけど、どうなんだろうねって、関係者が感じるようでは意味がありません。

では、時間となりましたので、本日の議事は以上となります。

皆さんから多くの貴重なご意見をいただくことができましたので、また、これを次のステップに生かしていただければと思います。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○渡邊課長補佐

委員及びオブザーバーの皆さま、ご意見、どうもありがとうございました。

先ほど申し上げましたとおり、いただいたご意見、アドバイスを取り入れながら、次のステップに進んでまいりたいと思っております。

では、以上で本日の予定は全て終了でございます。

次回は、また部会という形で、9月20日水曜日13時から15時で開催する予定でございます。現在のところ、今回と同じように県庁を会場に、ハイブリッド形式で開催させていただきたいと思っております。

詳細につきましては、また追って事務局からご連絡申し上げます。

それでは、これもちまして、次期愛知県観光振興基本計画（仮称）検討委員会の「第1回 地域づくり部会」を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(了)